

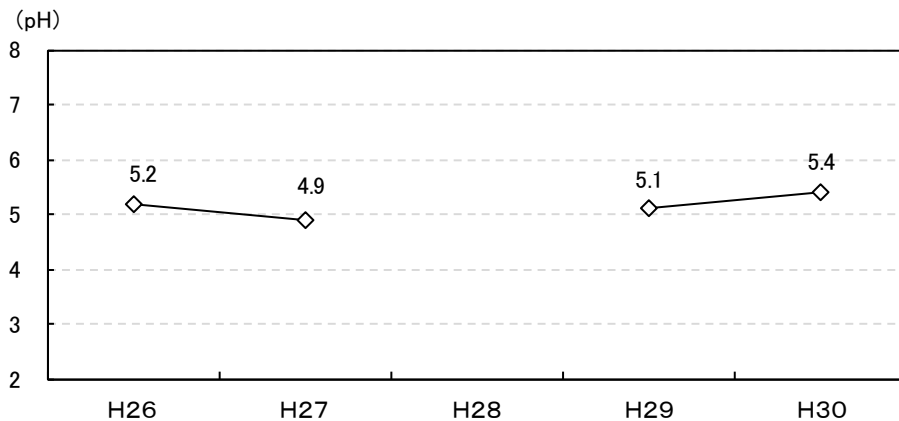
平成30年度 大気の現況

— 酸性雨 —

水溶液のpHは、7で中性、7未満が酸性です。雨に大気中の二酸化炭素が十分に溶け込んだ状態でpHは約5.6になります。そのため、人間活動の影響による大気汚染がないときにもpHは5.6になると考えられるので、pH5.6以下の雨のことを酸性雨といいます。酸性雨の原因は、工場や自動車などから排出される排気ガス中の硫黄酸化物や窒素酸化物を起源とする酸性物質が、雨・雪・霧などに溶け込むことにより強い酸性を示す現象です。

平成30年度の小樽市の酸性雨はpH5.4となっており、全国平均pH4.88（平成29年度）と比較すると、酸性度は弱くなっています。

酸性雨の経年変化



※ 平成28年度は、異常値のため欠測扱いとした。